



「冤罪」村木厚子 厚生労働省元局長 逮捕事件



キャリア官僚と検察の「重い罪」

波穏やかな瀬戸内海に浮かぶ香川県の小豆島。名産のオリブで知られるこの島は、壺井栄の小説「二十四の瞳」の舞台としても有名だ。

そんなのどかな島で、今年4月、本誌が詳報してきた郵便不正事件の「重要人物」がひっそりと小豆島町の町長に無投票で就任していた。島公文書作成・同行使の罪に問われている村木元局長の事件当時の上司だ。大阪地検特捜部の描いた「シナリオ」では、自称障害者団体「凜の会」の元会長、倉沢邦夫被告(74)の審判決では村木被告との共謀の容疑は無罪、検察側が控訴し、郵便割引制度の適用団体であることを認める証明書の発行の依頼を受けた民主党の石井一参院議員(75)が、最初に話を持ち込んだ先が塩田氏だった。その後、塩田氏が村木被告に指示したとされる「疑惑」の人物だ。

実際、塩田氏は被疑者として特捜部から何度も事情聴取を受け、取り調べの段階では、石井議員からの口利きと村木被告への指示を認めていた。この塩田氏の供述が村木被告が逮捕される大きなきっかけになったのは間違いない。だが、村木被告の公判に

証人として出廷した際には、「(事件は)壮大な虚構ではないか」と一転、供述調書の内容を翻す証言をした。真実はどこにあるのか。塩田氏が町長として初めての所信表明に臨んだ6月15日、小豆島町議会に向かう塩田氏を直撃した。記者が声をかけると、驚きのためか、手や上唇を小刻みに震わせながら、「この裁判での自分の立場は重すぎる。軽々しくしゃべることはできません」と取材を固辞していた塩田氏だが、現在の心境をたずねると、「村木さんが無罪の可能性が高いとのことで、ホッとしています」と重い口を開いた。

塩田氏は、島名産のしょうゆの醸造所が軒を並べる内海町(現・小豆島町)に生まれた。京都大学法学部を卒業後、厚生省にキャリア官僚として入省し、厚生省ナンバー3の政策統括官までのほりつめた。退職後

写真左から、小豆島、初めての町議会議に臨んだ塩田氏、村木厚子元局長

スクープ 疑惑の「キーマン」に直撃



で処理して欲しいと伝えた」さらに、「(村木課長は、私に、心得ていただきます。うまく処理するよう務めます。と返事をしてくれました)」

証明書が発行された後、村木被告からこんな報告も受けたという。「担当者苦勞してくれ、証明書を出すことになりました。秘書には私から連絡をしておきますので、石井代議士には部長から連絡をお願いいたしますという報告を受けました」

具体的にもまことしやかに供述しているようにみえるが、

のだが……。しかし、この大半が「架空」であったことは、村木被告の法廷ですでに明らかになっているのだ。「村木さんから報告を受けてみませんでした。ほとんどが虚偽です。あれは林谷検事がつくったストーリーです」

「事件に関して、私はまったく記憶になかった。でも、林谷検事から石井議員との「4分數秒の通話記録がある」と言われたんです。私が「それは議員会館の代表からですか? それとも議員の部屋からですか」と聞くと、「それは言えない」と林谷検事は自信ありげで、非常にリアルでした。当時、私は国会対策をやっていたか

ら、議員から電話を受けるのは自分しかない。議員案件は山のようにあり、記憶にはないが、まわりの人も認めていると言われ、そんなことがあったんだろうと、林谷検事のストーリーを認めただけです」

「取り調べの間中、林谷検事の言葉の端々に、『あなたを逮捕するかどうかは、検察の思いのまま』という意図を感じました。私は京大法学部を卒業して、息子も弁護士。法律のプロ同士のですよ。そういうことは言葉にされなくてもわかるんです! あなたね、逮捕されるのではないかと恐怖はすごい。私と検事と2人きりの取調室のあの空間に置かれなければ、その心境はわからない」と声を荒らげた。

しかし、その後、この通話記録は存在しないことが明らかになった。「村木さんの裁判に証人として出廷する際、公判を担当する白井(智之) 検事からその事実を知らされたときは、ハンマーで頭を殴られたような気持ちになりました」

「そのことは申し訳なく、反省しています。そういう事実を調書にされたことが、深層心理ではプレッシャーになっていったのかも」

「9月、村木被告に『無罪』の判決が下されるのはほぼ間違いない。しかし『壮大な虚構』をつくった、大阪地検特捜部とそれに『加担』した塩田氏の『罪』はどう裁かれるのだろうか。本誌・今西憲之、大貫聡子

週刊朝日MOOK

2010 終活マニアル「わたしの葬式 自分のお墓」

本誌連載で大反響 「現代終活事情」が一冊に!

定価680円(税込)